

次の時代、美しい海になっているだろうか？

岐阜市立藍川東中学校 3年

水野 翔(みずの しょう)

今、地球の海の環境がどうなっているか、知っていますか。今の海の環境は最悪な状況になっています。プラスチックごみが海中に大量にあったり、海藻がどんどん減ったりしています。ウミガメがビニール袋をクラゲと間違え、食べてしまい、死んでいます。外国でも、死んだクジラの胃の中から大量のバケツやビニール袋、釣具などが出てきたという話もあります。死因は窒息死です。

人間には関係のない、そんな気がしますね。しかし、実は色々な場面で関係していくのです。まず、考えられるのは、小さなプラスチックを食べた魚がお店に並びます。僕達はそれを知らずにその魚を食べてしまいます。それが原因で体調をこわすケースが多数あります。それだけではありません。人間が出すごみが多いため、政府が利用できる港や釣りをする場所を法的に制限してしまうそうです。これでは漁師の方が多くの魚を捕れなくなってしまったり、個人で自由に釣りをするのができなくなったりしてしまいます。釣りが好きな僕としては、とても残念な話なのです。

僕が小学生の時、福井県の海に釣りに行ったことがあります。とても美しい海で、アジやイワシなど大量の魚を釣った覚えがあります。その時は、魚はとても美味しかったです。しかし、最近その海に行った時、昔行った美しい海ではなく、プラスチックごみが浮いていたり、海底にごみが沈んでいたりしました。また、釣り人が置いていったであろうごみも堤防に置いてありました。他にも、使い終わったしかけや針、折れた釣り竿まで置いてあるのを見ました。同じ釣りに来た1人として、とても残念に思いました。目の前で海にごみを投げている人を見た時は、とても怒りがこみ上げてきましたが、その時は勇気をもって、注意することができなかったことも事実です。とても後悔しています。

海の中のごみの約4割がプラスチックごみのようです。さらに、プラスチックごみの約4割は釣具のようです。漁師の方もごみを出してしまうことがあります。この現状を変えようと思った、福井県の漁業協同組合の方がいます。少しでもごみを減らそうと、毎朝海周辺のごみを拾って美しく保とうとしている方々もたくさんみえます。特に最近では、網を海に残すことなく、しっかり時間をかけて処分するようにしてみえます。このような努力のおかげで福井県の海は、プラスチックごみや普通ごみ、釣りから出たごみがなんと、1300トンから500トンまで減らすことに成功したのです。

しかし、漁師の方々による取り組みだけでは海の環境は守られたとはいえません。僕達の学校には中学2年生と小学3年生と一緒に校区にある山田川の清掃をする活動があります。僕が活動した時、山田川にはペットボトルなど、多くのごみが落ちていました。川は海につながっています。その川のごみはいつか海に流れていってしまいます。山田川のごみは、海に流れていってしまい、海を守ろうとしている人達がどれだけ頑張っても、海の環境は保たれたとはいえません。僕達が川にプラスチックごみを捨てるだけで川だけでなく、海の環境も悪くなります。

海の環境など自分には関係がない!それは大きな誤解です。この地球に住んでいるだけでも関係者なのです。今地球に起きていることについて正しく知り、自分達にできることをしていかなければならないと僕は思います。

今自分の姿を振り返ってみてください。今からだって間に合います。動物の命も人間の命もみんな平等です。もう一度自分自身の行動を振り返ってみてほしいです。海のない岐阜県に住んでいますが、海の環境を守っていくのはこの僕達なのです。一人一人の意識があれば、そして、一人一人が行動すれば、きっときれいな海になっていくでしょう。そういう未来を僕達でみんなで作っていきませんか。